

平成17年度 高冷地水稻生育速報(第8報)

中山間農業技術研究所

1. 生育概況(7月26日)

品種名	年度	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		葉齡
				葉色板	SPAD値	
ひとめぼれ	本年	70.7 (91%)	460 (90%)	3.2 (-1.3)	29.5 (-5.6)	11.9 (+0.5)
	前年	84.1	504	4.6	36.6	11.8
	平年	77.6	509	4.5	35.1	11.4
コシヒカリ	本年	81.6 (98%)	451 (88%)	3.3 (-0.9)	30.9 (-3.3)	11.7 (-0.1)
	前年	86.9	535	4.5	37.9	12.1
	平年	82.9	510	4.2	34.2	11.8
たかやまもち	本年	72.5 (89%)	391 (84%)	4.3 (-0.9)	36.0 (-2.4)	12.4 (+0.5)
	前年	88.4	415	5.2	40.6	11.8
	平年	81.5	468	5.2	38.4	11.9
ひだほまれ	本年	84.4 (101%)	371 (105%)	3.9 (-0.9)	34.4 (-2.2)	13.1 (+1.1)
	前年	86.3	350	4.1	34.4	12.5
	平年	83.9	352	4.8	36.6	12.0

栽培条件: 移植5月17日 栽植密度22.2株/m² 1株4本稚苗移植 基肥N=0.5kg/a

平年値: 過去5年間の平均値

()内の数値は対平年値

2. 生育状況と当面の管理

1) 生育状況

気温は高めで推移し、特に最高気温が高くなっている。降雨が少く日照時間は長めとなっている(7月25日現在)。

草丈の伸長が鈍り、「コシヒカリ」と「ひだほまれ」で平年並み、その他では平年より短めとなっている。出穂間近となり、茎数は大きく減少した。また、葉色は葉色板、SPAD値ともに値が低下し、平年値よりやや薄い状態が続いている。

なお、所内ほ場の「はなの舞い」が7月25日に出穂期となった(平年より3日、昨年より2日早い)。

2) 病害虫等の発生状況

セジロウカ(夏ウンカ)が依然として大発生しており、斑点米の原因となるカメムシ類も見受けられる。また、コブノメイガによる食害が見られるようになった。

葉いもちについては、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」等の弱い品種で病斑が徐々に増加している。

3) 今後の管理

出穂の前後は、田面が乾くことのないよう湛水状態で管理する。全量基肥の肥料を施用したほ場では、葉色が薄いまま十分に濃くならないこともあるが、穂肥は施さない。

斑点米の原因となるカメムシ類の発生が多いので、「たかやまもち」等の早生品種では、穂揃期と乳熟期～糊熟期(穂揃期の7～10日後)の2回防除する。

「コシヒカリ」「ひとめぼれ」などイモチ病に弱い品種や常発田では、イモチ病の発生状況に留意し予防に努める。

3. その他

出穂が平年より早まっており、成熟期もそれに伴って早まると予想される。適期収穫にむけて、収穫機等の整備・準備を早めに行っておくこと。また、乾燥調整施設の稼働計画についても事前に十分な協議が必要と思われる。

<参考> 前回調査時(7月19日)の生育概況

品種名	年度	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		葉齡
				葉色板	SPAD値	
ひとめぼれ	本年	66.5 (95%)	566 (111%)	3.8 (-0.9)	33.2 (-2.6)	11.3 (+0.6)
	前年	76.4	532	5.1	39.0	11.0
	平年	69.9	511	4.7	35.8	10.7
コシヒカリ	本年	75.0 (99%)	513 (96%)	4.0 (-0.4)	36.5 (+2.2)	10.9 (-0.0)
	前年	79.6	573	4.2	35.4	10.9
	平年	75.9	535	4.4	34.3	10.9
たかやまもち	本年	70.9 (99%)	442 (90%)	4.9 (-0.4)	39.5 (+1.0)	11.6 (+0.3)
	前年	-	-	5.2	40.3	11.3
	平年	71.9	489	5.3	38.5	11.3
ひだほまれ	本年	80.3 (105%)	473 (123%)	4.2 (-0.5)	35.2 (-0.6)	12.1 (+0.6)
	前年	78.4	402	4.4	34.3	11.5
	平年	76.4	384	4.7	35.9	11.5

中山間農業技術研究所
TEL 0577-73-2029
FAX 0577-73-2751